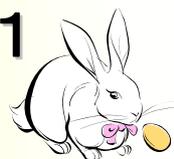


川上ダム通信

2011
2月号



独立行政法人水資源機構 川上ダム建設所
〒518-0294 三重県伊賀市阿保 251 番地 TEL: 0595-52-1661 (代)
<http://www.water.go.jp/kansai/kawakami>

平成23年度の川上ダム予算についてのお知らせ

平成22年12月24日、平成23年度政府予算案が示されました。川上ダム建設事業は、ダム検証の対象事業に位置付けられております。平成23年度予算額は、現段階（転流工）を継続するための必要最小限の予算として、**約10億円**が計上されました。主な内容は、**付替道路工事、環境調査等**です。今後とも川上ダム建設事業につきまして、皆様のご理解、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

【工務課長 柳生光彦】



●施工中の付替道路工事

工事名	請負業者名	工期予定
川上ダム付替県道青美線トンネル工事	清水建設（株）	平成22年 3月～平成24年2月
川上ダム付替県道青美線貯水池横断橋工事	鉄建建設（株）	平成22年12月～平成25年8月
付替県道青美線落石対策工事	（株）マルト重建	平成22年 8月～平成23年3月

付替道路関係の工事進捗状況について

1. 付替県道青美線落石対策工事

現在、付替県道青美線の山側斜面で、**落石対策工事を実施**しています。

この工事は、将来青山美杉線を供用するにあたって危険と考えられる岩の除去や落石の防止を目的としています。**ネットや柵を設置し、落石を抑制しています。**



落石防止のためのネット

2. 付替県道青美線トンネル工事

付替県道青美線トンネル工事につきましては、山肌を削るために、先月から発破作業が数回実施されております。このため、**近隣の皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、何卒ご容赦いただけますようお願い申し上げます。**

この作業が終了し次第、トンネルを掘り進んで行く工程に入ります。

【工事課 森岡浩然】



現在の山肌の様子

★速報★ 川上ダム検証がスタート！

川上ダムのダム検証の皮切りとして、「**川上ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場（以下：検討の場）**」が設置され、その**第1回幹事会**が平成23年1月19日に近畿地方整備局で開催されました。

幹事会では冒頭で、検討主体の近畿地方整備局尾澤河川部長と水資源機構関西支社原支社長が、関係地方公共団体の代表者に挨拶を行いました。その後、検討の場の規約や検証に係る検討手順についての確認がなされ、川上ダムの経緯や概要についての説明がありました。

意見交換では、関係地方公共団体の代表者から様々な意見が述べられました。地元の伊賀市、三重県からは、上野地域の過去からの水害の経緯を踏まえ、上流の治水安全度を早期に向上させる必要があることと、利水者として検証の検討が長引くことによる負担増が危惧されることから、速やかな検証の実施が求められました。また下流の大阪府、京都府からは、水需要の状況を踏まえ、予断なく点検すること等が求められました。

ダム事業者の水資源機構川上ダム建設所としては、頂いたご意見を踏まえ、できるだけ迅速かつ適切に検討を行い、早期に結論が得られるよう努力いたします。

※第1回幹事会の会議資料は以下のアドレスから閲覧することができます。

<http://www.water.go.jp/honsya/honsya/news/2011/news110121.html>

【調査設計課長 岩本浩】



第1回幹事会がスタート！

産業建設常任委員会の仮排水路トンネル視察

昨年の12月14日に、伊賀市議会産業建設常任委員会による、完成間近の仮排水路トンネルの現地視察が行われました。トンネル入口付近で、ダム建設事業の進捗状況を説明した後、仮排水路トンネル内部を案内しました。

トンネル内部は、工事が完了して仮設照明設備が撤去されていたため、懐中電灯を片手に視察していただきました。委員の方々からは、工事工程や仮排水路トンネルの役割等について、随所に質問がありましたので、パネル資料や図表、イラストを用いて説明いたしました。

【総務課 堀雅智】



トンネルの外観



事業の進捗を説明

第13回 植物図鑑シリーズ 地元で見られる植物

今の時期、植物は春の到来に備えてじっと我慢していますが、3月に入ると一斉に花を咲かせます。中でも、今回紹介するヤブツバキは、早春にいち早く開花の見頃となります。

ヤブツバキは、川上ダム周辺でごく普通に見られる種であり、野山で自然に生えているツバキのほとんどがヤブツバキです。

2～3月頃が開花時期で、直径5～7cm程度の赤い花をつけます。庭園などの観賞用のために、園芸品種も造られてきました。また、ヤブツバキの種をしぼって造られた油は、高級食用油や整髪料としても使われています。

ツバキの花は、花びらが個々に散るのではなく、根元でつながった状態で丸ごと落ちます。それが首の落ちる様子を連想させるため、お見舞いなどに持つていくことはタブーとされています。お気をつけ下さい。

【環境課 水野正明】



ヤブツバキ

第7回 伊賀市周辺の水辺の土木

伊賀米を育む大型溜池群

水を川から引き込もうとしても、必要な量がいつでも得られるとは限りません。雨が降らない日が続くと次第に川の水が減り、水田では水が十分に行きわたらない状態（干ばつ）になります。干ばつになると少しでも多くの水を得たいがため、僅かな川の水を奪い合う「水争い」が起こります。川の上流で水を取りきってしまうと下流はもはや水はなく、上流と下流の間で激しい対立が生じました。

伊賀地方で最も有名な水争い「慶長水論」もこうした干ばつ時の上下流対立です。戦国大名筒井家が伊賀地方を治めていた慶長元年（1596年）。久米川の上流にある中坊飛驒守秀祐の領地で川の水を全て引き込んでしまったため、下流の島左近清興の領地には一滴の水も流れなくなりました。島は領民を救うべく水の分配を求めて中坊と交渉を行うも決裂。島は中坊領のさらに上流に井堰を築いて自領に水を引き込む実行使に出ました。この事件は主君筒井定次により仲裁されますが、島はこの裁定に納得せずやがて筒井家を去ります。浪人となった島は後に石田三成に高禄で召し抱えられ、関ヶ原の役で奮戦したことは有名です。

干ばつへの有効な対策は溜池を築いて水を蓄えておくことです。伊賀地方は美味で有名な「伊賀米」が穫れる良質な農地が広がっていますが、降水量は三重県内で最も少なく（上野の年平均降水量 1,390mm）水に恵まれているとは言えません。県内の約 3,500 箇所の溜池のうち伊賀地方の溜池はその 4 割（約 1,400 箇所）を占めており、先人が水の確保に苦労してきたことがうかがえます。

江戸期以前は小さい溜池でしのいできましたが、明治以降になると欧米の技術を取り入れ、連続無降雨 50 日を超えるような大干ばつ時にも頼りになる大規模な溜池の築造が始まりました。田代池（明治 31 年新築、昭和 19 年改築）、大正池（昭和 10 年完成）から始まり、戦後の昭和 22 年の大干ばつを契機に大杉池の改築と鴉山池の新築（昭和 29 年完成）、滝谷池（同 31 年完成）の建設が急ピッチに進められました。その後も竹谷池（同 35 年完成）、真泥池（同 50 年完成）など大型溜池や近代的アースダムが完成し、蓄えられた水は伊賀の米づくりを支えています。



服部川で唯一の大規模ため池／真泥池
（近代的アースダム）

柘植川最上流部の大杉池



編集後記



寒さが一段と厳しさを増し、朝起きるのがますますつらい季節となってきました。一日の最後は、長めに湯船につかり、体をしっかりと暖めてから床につき、疲労の回復と風邪の防止に努めましょう。

また最近、頻繁に雪がちらついております。お車を運転される際は、スリッパ等に注意して、安全運転を心がけましょう。

〔広報誌発行事務局〕

編集長 及川 拓治（川上ダム建設所長）
デスク 吉岡 直也（総務課長）
" 柳生 光彦（工務課長）
通信記者 堀 雅智（総務課）
加藤 晶久（第一用地課）
松高 遵（第二用地課）
森岡 浩然（工事課）



ISO14001: 2004
JQA-EM5769

☆☆☆皆様からのご意見・ご感想をお待ちしています。ハガキやメール等でどしどしお寄せください。☆☆☆

◇川上ダム建設所は ISO14001 を取得し、環境保全を推進しています。◇